



令和元年(2019年)10月4日
No.3
豊中市立北条小学校



本年4月18日に6年生を対象に「全国学力・学習状況調査」を実施いたしました。本校の結果分析と課題などについてお知らせいたします。昨年までは、基礎・基本（A問題）と活用（B問題）に分かれていましたが、今年から1本化されて、算数と国語で学力調査が行われました。国語では、「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」、算数では、「数と計算」「量と測定」「図形」「数量関係」のそれぞれ4領域で行われました。この調査結果は、学力や学習状況の一部であり、児童の学力や学習状況、学校の教育活動などのすべてを表すものではありません。それを踏まえた上で、学校と家庭・地域が学力や学習状況に関する課題を共有し、さらに連携を深めていくことを目的として、お知らせいたします。

☆ ☆ ☆ ☆ ☆ ☆

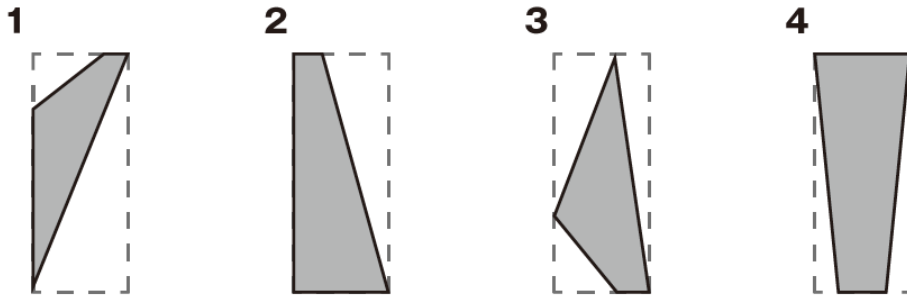
教科に関する調査より

＜本校＞
○国語・・・どの領域においても課題が見られ、特に基礎基本となる「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」や「話すこと・聞くこと」において課題が見られました。問題形式では、短答式・記述式に課題があり、全般的に無回答率も高かったです。
○算数・・・「数量関係」に課題が見られました。問題形式では、国語と同じく、短答式・記述式に課題があり、記述式では無回答率も高かったです。

豊中市全体の傾向でもありますが、本校でも話し手の意図を捉えながら聞いたり、話し合いの話題や方向性を捉えたりしながら、自分の考えをまとめて書く力や示された情報や資料を解釈し、問題解決の方法を説明したり記述したりする力に課題がありました。算数では、基本的な知識・技能は身につけていると考えられますが、活用面で少し課題が見られました。

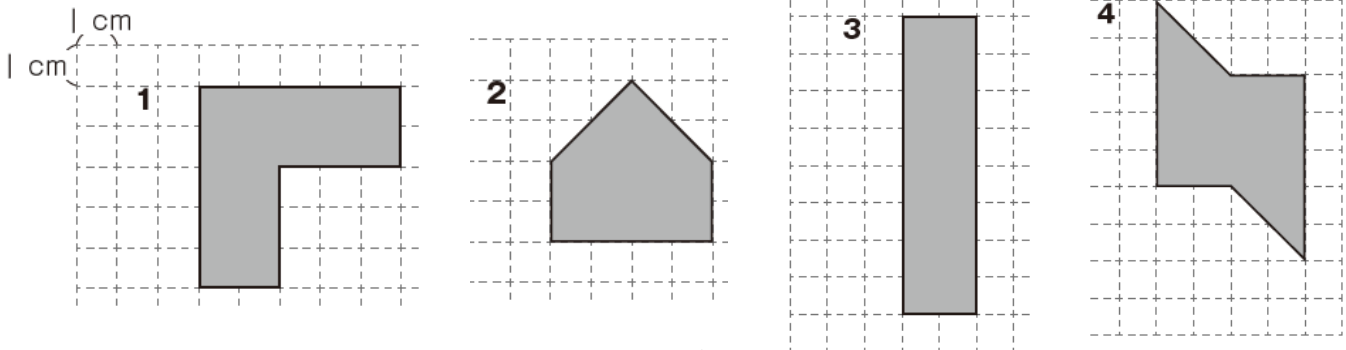
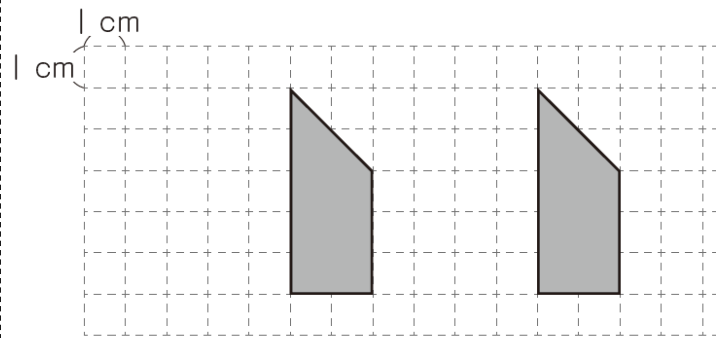
例えば、図形の領域では、問題(1)のような問題では、ほとんどの児童が正答することができていました。一方、問題(2)で正答率が低くなり、課題が見られました。問題(3)は、示された面積の求め方を解釈し、その求め方の説明を記述するのですが、比較的よくできていました。これは、式の意味を理解し説明させる学習や、多面的な方法で考えさせ意見交流させる授業にも力を入れてきた成果であると考えられます。

問題(1) ゆうたさんは、長方形の紙を直線で切って、次の1から4までの図形をつくりました。下の1から4までの中で、台形はどれですか。2つ選んで、その番号を書きましょう。



問題(2) ちひろさんは、次のように、2つの合同な台形をつくりました。

この2つの合同な台形を、ずらしたり、回したり、裏返したりして、同じ長さの辺どうしを合わせ、いろいろな形をつくります。どのような形を作ることができますか。下の1から4までの中からすべて選んで、その番号を書きましょう。



この問題の正答は、1, 3, 4ですが、本校での間違いで一番多かったのは、1, 2, 3, 4という回答でした。2もできると考えて間違えてしまったようです。

問題(3) ゆうたさんたちは、2つの合同な台形で作られた図1の形の面積を求めようとしています。

ゆうたさんは、図1の面積を次のように求めました。

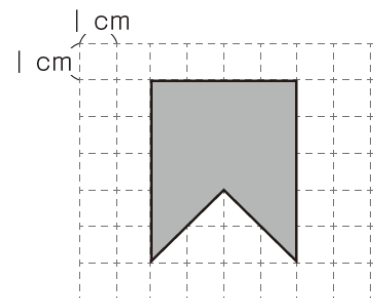


図1

【ゆうたさんの求め方】

$$(3 + 5) \times 2 \div 2 = 8$$

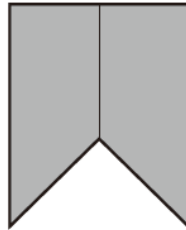
$$8 \times 2 = 16$$

答え 16 cm²



ゆうた

図1の形を、下の図のように、合同な台形2つとみました。



まさるさんは、【ゆうたさんの求め方】の中の「 8×2 」が、どのようなことを表しているのかを、下のように説明しました。



まさる

8は、1つの台形の面積を表しています。

8×2 は、1つの台形の面積を2倍していることを表しています。



ちひろ

わたし
私は、ほかの求め方を考えました。

【ちひろさんの求め方】

$$5 \times 4 = 20$$

$$4 \times 2 \div 2 = 4$$

$$\underline{20} - 4 = 16$$

答え 16 cm²

【ちひろさんの求め方】の中の「20 - 4」は、どのようなことを表していますか。「20」と「4」がどのような図形の面積を表しているのかがわかるようにして、言葉や数を使って書きましょう。

この問題の正答の条件は、次の①②③を全て書けているということです。

① 20が長方形の面積であること。

② 4が、三角形の面積を表していること。

③ 引き算が、長方形の面積から三角形の面積を取り去ることを意味していること。

不正答が一番多かったのが、①と②は書けていたが、③について書けていなかった児童です。

次に国語についてです。「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」の領域において、漢字を書く問題、「調査のたいしょう」の「たいしょう」(対象)は、比較的よく書くことができていました。しかし、大阪府全体の傾向でもありますが、同音異義語に注意して、本文の意味を考えながら正しい漢字を書くことが苦手な児童が多く見られました。例えば次のような問題です。

問) 今回の調査を通して知ったことを、学級の友達にかぎらず多くの友達に伝え、公衆電話についてかんしんをもってもらいたいと思います。

「かぎらず」(限らず)と「かんしん」(関心)を漢字で書くという問題です。

「かぎらず」は、比較的書けていましたが、「かんしん」を間違えた児童が非常に多く、大半が「感心」と間違えていました。このように同音異義の漢字ができていない傾向が毎年続いています。まぎらわしく間違えやすい漢字ですので、意味も考えながら書くように指導していきたいと考えています。

どの教科でも、機械的に覚えるだけの学習では、基本的な知識・理解を問われるような問題でも非常に正答率が低くなることがあるので、意味を考えさせること大切になってきます。

また、「書く」領域では、大事な文章を見つけて、限られた字数内でまとめて書くということも非常に苦手だということが分かりました。例えば、次のような問題です。

公衆電話について調べたことを報告する文章があり、調査の内容と結果について分かったことを 内に文章中の言葉を使ってまとめて書くという問題です。(下の問題文参考、資料は省略)このような問題は、要約ができるかどうかが大事です。キーワードやキーセンテンスを見つけて、それらを使って大事なことをまとめるという学習に、さらに力を入れて取り組んでいきたいと思います。

1 はじめに(略)

2 調査の内容と結果

(1) 公衆電話はどのようなときに必要なのか

多くの人がけいたい電話を持つ中で、公衆電話が必要とされているのかどうかを調べてみることにしました。そこで、地いきの人三十人を調査のたいしょうとして、公衆電話は必要かどうかを聞いたところ、ほとんどの人が必要だと回答しました。その理由をまとめたものが 資料2 です。「けいたい電話をわすれたときに必要」、「けいたい電話の電池が切れたときに必要」などの回答がありました。このことから、公衆電話は、主にけいたい電話を使うことができないときに必要とされているということが分かりました。

(2) 公衆電話にはどのようない方や持ちようがあるのか

公衆電話について書かれた資料を調べてみると、公衆電話には、次のような使い方や持ちようがありました。

・警察署

(110番)や消防署(119番)には、硬貨やテレホンカードがなくても通報することができます。

・停電のときでも、硬貨を使って通話をすることができます。

・電話が混み合っているときでも、優先的につながりやすい。

このように、公衆電話は、きん急のときにも使うことができるということが分かりました。

(3) 公衆電話はどのような場所にあるのか

公衆電話を必要なときに使うことができるようにするためには、どのような場所に設置されているのかを前もって知っておくことが大切だと思ったので、わたしは、公衆電話の設置場所を確かめてみることにしました。実際に町を歩いてまとめたものが 資料3 です。この資料から、公衆電話は、主に病院や学校、駅などの多くの人が集まる場所にあるということが分かりました。

3 調査の結果をもとに考えたこと

調査の結果から、公衆電話は、わたしたちにとって必要がなくなってしまうわけではないと考えました。なぜなら、

また、公衆電話を使いたいときには、多くの人が集まる場所へ行けば見つけやすいのではないかとことも考えました。

今回の調査を通して知ったことを、学級の友達にかぎらず多くの友達に伝え、公衆電話について かんしんをもってもらいたいと思います。